

シスプラチン+ペメトレキセド

◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

- 点滴時間 : 4時間25分

使用する薬	外観	点滴時間
吐き気止め① プロイメンド®		30分
吐き気止め② アロキシ®、デカドロン®		15分
ペメトレキセド 500 mg/m ²		10分
生理食塩液、KCL、 硫酸Mg (腎障害予防)		1時間
利尿剤 マンニトール®		30分
シスプラチン 75 mg/m ²		1時間
生理食塩液、KCL (腎障害予防)		1時間




- ペメトレキセドによる副作用を軽減するために、9週間に1回 メチコバール® (ビタミンB₁₂) を筋注します。
- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。

◆ スケジュール

21日間を1コースとして、治療を繰り返します。

◆ 内服薬の飲み方

- 症状があってもなくても、**必ずお飲みください。**

お薬の名前	用法用量、使用上の注意
<p>パンビタン®末</p> 	<p>1回1包 1日1回 朝食後 毎日</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペメトレキセドによる副作用を軽減するために使用します。
<p>デカドロン®錠 4mg</p> 	<p>1回 ____ 錠 1日 ____ 回 ____ 食後 点滴前日と2～4日目</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペメトレキセドの皮疹や吐き気を予防するために使用します。
<p>オランザピンOD錠 5mg</p> 	<p>1回1錠 1日1回 夕食後 1～4日目</p> <ul style="list-style-type: none"> • 吐き気を予防します。 • 眠気、めまい、動悸、立ちくらみが起こることがあります。薬を内服している間は、自動車の運転などはさけてください。 • 糖尿病の方、糖尿病と言われたことのある方は、この薬を服用することはできません。

◆ 主な副作用

白血球減少

白血球が減少すると免疫力が低下し、風邪などの感染症にかかりやすくなります。

治療開始1～2週間後に白血球の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

うがい・手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

37.5度を超える発熱時、医師からあらかじめ処方された薬がない方は、病院へご連絡ください。

赤血球減少

貧血になり、めまい、だるさ、動悸、息切れなどの症状があらわれます。治療開始2～4週間頃に低くなります。

必要に応じて、薬で治療したり輸血することがあります。

血小板減少

血液が固まりにくくなり、歯茎からの出血や鼻血が出やすくなります。治療開始1～2週間後に血小板の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

転倒やケガに注意してください。

必要に応じて、輸血することがあります。

【血液検査について】

副作用の確認のために、定期的な血液検査を行います。

◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

※血管痛・静脈炎

薬の種類によっては、点滴が漏れていなくても血管痛を起こすことがあります。また点滴終了後、血管のつっぱり感、硬くなる、色素沈着などの静脈炎が起こるがあります。

点滴前にホットパックで腕を温めるなどの対応を行うことがあります。治療のたびに起こる血管痛が辛い場合や静脈炎がひどい場合は、主治医や医療スタッフにご相談ください。

◆ 点滴終了後～1週間頃

吐き気・嘔吐・食欲不振

必要に合わせて、吐き気止めでしっかりと予防を行っています。
それでも症状がある場合は、吐き気止めを追加で使用することがあります。水分が摂れないほど吐き気・嘔吐がひどい場合は、ご連絡ください。

便秘

お腹の動きが悪くなり、便が固くなったりお腹がはる場合があります。食事や水分摂取、適度な運動でも改善しない場合、下剤を使用します。

発疹

皮膚が赤くなる、かゆみが出る場合があります。
刺激の少ない肌着を着用しましょう。塗り薬やかゆみ止めの内服薬を使用することがあります。
治療開始後数日以内に全身に発疹やかゆみが出る、目の粘膜や唇がただれる、発熱を伴う場合などはすぐに病院へ連絡してください。

倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

しゃっくり

症状がつらいときは、薬を使用することがあります。

◆ 1～2週間頃

下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、**下痢止めを使用**することがあります。

強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。

口内炎

口の中がヒリヒリする、しみる、痛くなることがあります。

歯みがきやうがいで口の中を清潔に保ち、**乾燥を防ぐことが大切**です。また**うがい薬や塗り薬**を使用することがあります。

がまんできない、水分もとれないほどの口の中の痛みがある場合は、病院へご連絡ください。

◆ 2～3週間頃

脱毛

薬の種類によって抜けやすさは異なりますが、1～2か月後にはかなり目立つようになります。

髪の毛以外（まゆ毛、まつ毛など）全身の体毛も同様に抜けます。

治療が終了すると、少しずつですが生えてきます。

◆ 蓄積性の副作用

末梢神経障害（手や足の感覚が鈍くなる、しびれ）

治療を長く続けると少しずつ悪化し、しびれや痛みが持続するようになります。治療を終えても回復に時間がかかります。

手先をうまく使えずボタンがかけづらい、転倒しやすいなど、日常生活に支障が出る前に、診察時に医師に相談してください。

色素沈着

皮膚に日焼けのようなしみができる、爪が黒ずむ

味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出る場合があります。

聴覚障害

耳が聞こえづらい、耳鳴りが続く場合は、診察時にご相談ください。

● その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

腎機能障害

定期的な血液検査を行います。

尿量の減少、全身のむくみ

シスプラチンの点滴を受ける患者さまへ

- シスプラチンの点滴をされる方は、腎障害の予防のために輸液を点滴し、尿量を増やす必要があります
- また、帰宅後も以下を目安に水分補給を行ってください。

水分補給の目安

- ① 当日は、シスプラチン点滴終了までに1Lの飲水を目指しましょう。
その後もこまめな飲水を心掛けて下さい。
- ② 翌日、翌々日は、普段の飲食に加えて、500mL～1Lの飲水を行ってください。
(食事が摂れるとき：500mL、食事が摂れないとき：1000mL)
- ③ 吐き気やおう吐などがあり、飲水ができないときは、医療スタッフに知らせるか、病院へご連絡ください。

◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない
下痢が止まらない
37.5℃以上の発熱が続いている
薬の使用方法がわからない

など



診察券を用意する

代表：044-977-8111 に電話をかける

平日：8:30-17:00
土曜日：8:30-12:30

腫瘍センター
ナースステーション

夜間帯・休診日
など左記以外の時間

各診療科の当直医

◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関に入って右手の
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした
後、
各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30 土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師